

相対的安定期におけるシュトレゼマンの外交戦略と限界 ——「地経学」的観点からの考察——

井上 健太郎（言語社会専攻博士前期課程2年）

1. はじめに

1.1 本報告のテーマ

本報告は、ヴァイマル期にグスタフ・シュトレゼマン外相の掲げた外交政策の特徴およびその限界について、「地経学」（地政学の変種）の見地から考察を行う。「地経学」とは、軍事的解決が意味をなさなくなった時代に、「有益な地政学上の結果をもたらすための経済的手段の行使」を志向する国家戦略である¹。ドイツ外相もまた、相対的安定期（1920年代後半）のドイツ経済を利用して、ドイツの抱える地政学的問題を解決しようと考えたのである。

ではドイツの地政学的問題とは何か。ドイツがヨーロッパ中央に位置することから、近隣諸国にとってその地域における強大な国家の出現は脅威であり、各国は対抗策として対独包囲網形成へと走る。ドイツもその地理的条件から東西の大国によって挟撃される状況にあり、対独同盟を回避して東西の一方と協調関係の確立・その無力化を試みてきた。この東西間でのバランス調整こそが、ドイツ外交史を貫く地政学的原則＝「ドイツ問題」なのである²。

1.2 先行研究とその問題点、本報告の目的

ドイツ経済とシュトレゼマン外交の関係性に関する先行研究については、権力政治の変種としての協調主義の下での通商条約政策 [Niedhart 2002 ; Schröder 1982 ; 北村 2006]、ドイツのアメリカ経済への依存関係 [Link 1978]、ドイツ産業界と政府間の協調と対立 [Pohl 1980]、ドイツ外交と「中欧思想」 [Stegmann 1978 ; 北村 2014] に類型化できる。だが、歴史的にドイツ外交と地政学（安全保障問題）には密接な関係があるにもかかわらず、シュトレゼマン外交におけるそれと経済（手段としての）との関連に言及した研究は見られない。また、経済重視型外交に内在する限界に関する研究も決して多くはない [Kubû 1994]。こう

¹ Robert D. Blackwill & Jennifer M. Harris 2016. *War by Other Means: Geoeconomics and Statecraft*. Cambridge-Massachusetts., p. 20ff.

² 「ドイツ問題」の研究文献として以下を参照。Peter Alter 2000. *The German Question and Europe. A History*. London ; W・D・グレーナー（丸畠宏太・進藤修一・野田昌吾 [訳]）2008. 『ヨーロッパのなかのドイツ 1800~2002』ミネルヴァ書房。

した先行研究の分析から本報告は、シュトレゼマン外交に占める経済要因を研究対象とし、外交・経済・地政学の3者間関係を検討する。また1920年代後半のドイツ経済の実態の分析を通して、1926年の独仏秘密会談を例に、同外交のもつ限界性を検証する。

2. シュトレゼマン外交における外交・経済・地政学

2.1 シュトレゼマンの外交戦略

1924年5月、雑誌『ツァイト』紙上においてシュトレゼマンは次のように述べている。「我々の経済こそが、現在ドイツのもつ資産の最も強力な基盤である。それを健全に維持することは我々全員の義務である。〔中略〕とどのつまり、どのドイツ政府もドイツ経済とともに歩んで行かなければならない。だがドイツの経済においては、それが自己目的ではなく、目的のための手段であることもはっきり認識してしかなるべきである。その繁栄と成長はドイツ国民の運命と密接に結びついているのである」³。国際協調が国際信用の礎石であり、それゆえ国際信用は国際貿易に不可欠のものである⁴。またドイツ経済は原料の輸入に依存しているため、再び世界市場で通商活動を行うことができるように取り計らわねばならず、ドイツが世界の道徳的・経済的信用を取り戻す必要のあることもシュトレゼマンは強く自覚していた⁵。こうしてドイツ外相は、「我々の外交政策におけるこの優れて強力な武器を私は、我々の経済的地位の中に見る」⁶と述べることで、ドイツ経済を政治と国民生活とに結びつけ、自家の外交戦略上の最重要手段と位置付けたのである。

2.2 シュトレゼマン外交の「地経学」的可能性

1925年12月にロカルノ条約が最終調印されたとき、ドイツ外相の解決すべき重要問題がラインラント占領問題であった。1926年初めのラインラントは、その大部分が連合軍によって占領されたままであった。当時シュトレゼマンは、ロカルノ条約によって西欧との協調を維持しつつ、ヴェルサイユ条約で割譲した領土をポーランドから奪回しようと画策していた。だがラインラントの大部分がなお占領下にあることは、ドイツが西側自国領に外国軍隊を抱

³ *Vermächtnis: Der Nachlaß in drei Bänden*. Bd. 2. hrsg. von Henry Bernhard. Berlin. 1932/33., S. 64.

⁴ Gustav Stresemann 1924. The Economic Restoration of the World. in: *Foreign Affairs*, vol. 2, No. 4., p. 554f.

⁵ Jonathan Wright 2002. *Gustav Stresemann: Weimar's Greatest Statesman*. Oxford., p. 147.

⁶ *Akten zur deutschen auswärtigen Politik 1918 – 1945 aus dem Archiv des auswärtigen Amts*. Serie B, Bd. I-1, 1966. Göttingen., S. 728f.

え込んだままであることを意味する。これを放置すれば、ドイツは西欧と対立の火種を抱えたまま東部国境修正政策を行わざるをえなくなる。

こうして「ドイツ問題」の見地から、ドイツは対外的に不利な立場に立たされる。それゆえシュトレゼマンは、このジレンマを解消するためにラインラント問題を外交政策上の最優先課題に据え、ドイツ経済力を駆使してこれを解決していく戦略（＝「地経学」）をとったのである。その前提として、ドイツの半製品・完成品の輸出を意図的に管理することで他国（ここでは東欧諸国）から譲歩を勝ち取り、またドイツの貿易黒字による余剰を対外資金援助に動員することでその見返りを要求する。巨大なドイツ市場も他国のドイツ経済への依存を強めるのに役立つであろう。これがシュトレゼマンを含めたドイツの政治・経済界の共通構想だった。



牧野雅彦 2012.『ロカルノ条約——シュトレゼマンとヨーロッパの再建』中央公論新社、45頁。

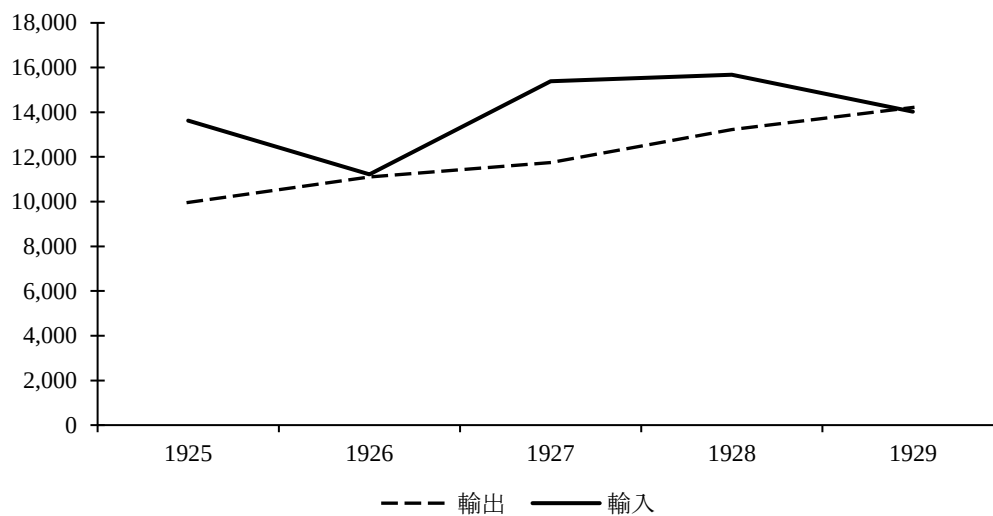
3. 相対的安定期（1920年代後半期）におけるドイツ経済の実態

1926年から28年にかけてドイツでは、1924年以降に本格化した重化学工業を中心とする産業合理化運動の成果とされる「合理化景気」と呼ばれる好況期が到来した⁷。実際、ドイツ輸出総額の7割前後を占める完成品の輸出総額は、戦前の1913年の67億ライヒスマルクから1926年の71億ライヒスマルク、1928年の87億ライヒスマルクへと戦前を上回る規模で増加している⁸。

⁷ 産業合理化については以下を参照。山崎敏夫 2001.『ヴァイマル期ドイツ合理化運動の展開』森山書店。

⁸ *Statistisches Jahrbuch für das Deutsche Reich*. hrsg. von Statistisches Reichsamt. 1926. Berlin., S.141ff. ; 1928., S.195ff. ; 1930., S.195ff.

【図 2】 相対的安定期におけるドイツの全輸出入額の推移



注 1) 単位は 100 万ライヒスマルク。注 2) 輸出に関しては 1925 年以降賠償現物支払いを含む。

注 3) 1928 年の輸出入の数値は最終数値。（出典）*Statistisches Jahrbuch für das Deutsche Reich*. 1930., S.190.

だが貿易収支全体を見ると、貿易収支が黒字に転じたのは 1929 年のみで、それ以外の年度は輸入超過に終わっている（【図 2】を参照）。この輸入増加の要因はヴェルサイユ条約によって耕作可能な土地や鉱山資源を有する地域が失われ、その結果ドイツ経済がその食糧・原料依存傾向をますます強めることになったこと、アメリカの躍進とソ連・日本での新興産業の勃興によって、世界市場におけるドイツの輸出能力が大きく損なわれたことが挙げられる⁹。

【表 1】 相対的安定期のドイツ国際収支

（単位：100 万ライヒスマルク）

	1925 年	1926 年	1927 年	1928 年
経常収支	－3,045	－ 39	－4,244	－3,175
うち：貿易収支	－2,444	＋ 793	－2,960	－1,285
賠償支払い	－1,057	－1,191	－1,584	－1,999
長期資本収支	＋1,324	＋1,376	＋1,703	＋1,788
短期資本収支	＋ 107	＋ 147	＋1,779	＋1,335
残余項目	＋1,704	－ 916	＋ 310	＋ 983
発券銀行金外貨準備	－ 90	－ 568	＋ 452	－ 931

（出典）工藤 1999. 『20 世紀ドイツ資本主義——国際定位と大企業体制』 東京大学出版会、33 頁。

⁹ Robert M. Spaulding 1997. *Osthandel and Ostpolitik. German foreign trade policies in Eastern Europe from Bismarck to Adenauer*. Oxford., p. 107.

次に国際収支を見てみると、ドイツはこの貿易収支の赤字を、長期・短期の外資を借り入れて賄うことによって国際収支のバランスをとっていたことが分かる（【表 1】を参照）。このような長期・短期外資導入は元来、「生産的」使用を通じてドイツ産業の生産性向上と輸出競争力の強化を目的として行われるはずであったが、ヴェルサイユ条約によって定められた賠償支払いが、借り入れられた外国資金によって履行される結果になった。その上この長期・短期外資の借入先がアメリカ金融市場であったことから、ドイツはますますアメリカの意向を配慮せねばならず、その外交政策の行動範囲もその分限定されざるをえなくなった。

4. シュトレゼマン外交の限界——独仏トワリー会談を例に

4.1 トワリー合意

1926 年 9 月 17 日、シュトレゼマンはフランス外相ブリアンとレマン湖近郊の小村トワリーで非公式会談を行った。そこでは、独仏間の諸問題の全体的解決を目指し、ラインラントからの全面撤退やザール地方の返還等の代わりに、ドイツがフランスに経済援助を行うことが協議された。この経済的見返りとは、ドーズ案で設立されたドイツ国営鉄道会社の社債¹⁰の一部を資本市場（ここではアメリカ資本市場）で売却することで、その収益のうち 52%をフランスへ配当するというものであった。シュトレゼマンは、この社債売却の際のフランスの手取り額は 7 億 5000 万マルクになると見積もり、これにザール地方炭坑を買い取るという形で支払う 3 億マルクを合わせて、10 億 5000 万マルクがフランスに供与されると観測した¹¹。

4.2 トワリー会談の挫折

このトワリー会談はシュトレゼマンの「地経学」外交の成果であり、ドイツ政府内でもこの取り決めは大多数によって支持された。だがアメリカの政治・経済界では社債のアメリカ市場への売却に対して否定的な雰囲気が大勢を占めた。アメリカはフランスが米仏戦債協定を批准しない限り、フランスに対する金融援助を保留する構えであり、ドイツ賠償問題とフランス財政難とを「別個の問題」と見ていた。特にギルバートは、社債売却の収益がフラ

¹⁰ 1924 年 6 月のドーズ案によって、資本金 260 億金マルクを保有するドイツ国鉄公社が設立された。ドイツ国鉄は同社の所有する不動産を担保として総額 110 億金マルクの社債を発行し、年度ごとに支払う 5%の利子を賠償金に充当することが定められた。E・アイク（救仁郷繁 [訳]）1989.『ワイマル共和国史（II）』ぺりかん社、140 頁。

¹¹ *Vermächtnis*, Bd. 3, S. 15ff.

ンス政府予算の負債分を一時的にカバーするために浪費されるのを望まなかった。それゆえ賠償総代理人は、社債の利払い時の振替保護¹²の放棄を拒絶したのだった¹³。

フランスでもドイツとの協調に反感を抱く右翼の影響が強まり、対独世論の悪化の中でブリアンも苦境に立たされた¹⁴。さらに、ポワンカレ首相による財政政策が功を奏し、国際収支を改善し、下落していたフラン価値を引き上げ、フランスを財政危機から救出することに成功した¹⁵。かかる国内世論の反発、政府内での孤立、そしてフランス経済の回復という事態を受けて、ブリアンもついに11月末にはトワリー政策を断念せざるをえなくなったのである。

5. おわりに

シュトレゼマンの経済重視型外交、すなわち「地経学」外交は、ドイツの経済力をもって地政学的問題（例えばラインラント撤退）を解決し、「ドイツ問題」のジレンマを払拭しようとする戦略であった。だがトワリー会談の失敗で明らかになったことは、この合意を水泡に帰せしめたのが米仏の政治・経済動向ではなく、むしろドイツの潜在的経済力という一つの「神話」であったという点である。このようにシュトレゼマン外交を2世紀に渡る「ドイツ問題」の中に位置付けると、それは経済的手段で、西欧との協調と東欧におけるドイツの失地奪還との両方を試みる修正主義的な政策であった。この「地経学」外交が成果をあげることは少なかったが、本報告は、同外交が限られた状況の中でとりうる最善の方法であって、そうであってもやはりヴァイマル共和政の支柱であり続けたと結論するのである。

6. 史料・文献一覧

6.1 刊行史料

¹² ドーズ案で付与されたドイツ通貨の保護規定。ドイツは賠償金をライヒスマルク建てで支払うことで、その賠償義務が履行されたと見なされ、これを賠償総代理人 P・ギルバートが、ドイツ通貨に悪影響を与えない限度内で債権諸国に振替配分する。ドイツ通貨から外国通貨への両替の際にドイツ通貨の安定性が脅かされるときには、総代理人は両替・振替を停止する。だが仮に国鉄社債が資本市場を通して民間に流出すれば、ドイツ通貨下落の阻止のための社債利子支払いを停止することができるトランスファー保護が、民間債券所有者には適用できなくなる恐れがあった。Jon Jacobson & John Walker 1975. The Impulse for a Franco-German Entente: the origins of the Thoiry Conference, 1926. in: *Journal of Contemporary History*, vol. 10, No. 1., p. 158. ; アイク、前掲書、138、333 頁。

¹³ *Ibid.*, p.166f. ; 牧野、前掲書、136－137 頁。

¹⁴ Heinz-Otto Sieburg 1968. Das Gespräch zu Thoiry 1926. in: Ernst Schulin (Hrsg.) 1968. *Gedenkschrift Martin Göhrling. Studien zur europäischen Geschichte*. Wiesbaden., S. 331.

¹⁵ M・レヴィ＝ルボワイエ（中山祐史〔訳〕）2003.『市場の創出——現代フランス経済史』日本経済評論社、300－301 頁。

Akten der Reichskanzlei: Weimarer Republik. Boppard am Rhein.

Akten zur deutschen auswärtigen Politik 1918 – 1945 aus dem Archiv des auswärtigen Amts. Göttingen.

Statistisches Jahrbuch für das Deutsche Reich. hrsg. von Statistisches Reichsamt. Berlin.

Vermächtnis: Der Nachlaß in drei Bänden. hrsg. von Henry Bernhard. Berlin. 1932/33.

6.2 同時代文献

Stresemann, Gustav 1924. The Economic Restoration of the World. in: *Foreign Affairs*, vol. 2, no. 4.

6.3 研究文献

6.3.1. 欧文

Alter, Peter 2000. *The German Question and Europe. A History.* London.

Blackwill, Robert D. & Harris, Jennifer M. 2016. *War by Other Means: Geoeconomics and Statecraft.* Cambridge-Massachusetts, The Belknap Press of Harvard University Press.

Feldenkirchen, Wilfried 1998. *Die Deutsche Wirtschaft im 20. Jahrhundert.* München.

Jacobson, Jon & Walker, John 1975. The Impulse for a Franco-German Entente: the origins of the Thoiry Conference, 1926. in: *Journal of Contemporary History*, vol. 10, No. 1.

Kubů, Eduard 1994. Die brüchigen Beziehungen: Die Weimarer Republik und die Tschechoslowakei. in: J. K. Hoensch & D. Kováč (Hrsg.) *Das Scheitern der Verständigung. Tschechen, Deutsche und Slowaken in der Ersten Republik (1918 – 1938).* Essen.

Link, Werner 1978. Die Beziehungen zwischen der Weimarer Republik und den USA. in: Michael Stürmer (Hrsg.) 1980. *Die Weimarer Republik: Belagerte Civitas.* Königstein.

Niedhart, Gottfried 2002. Außenminister Stresemann und die ökonomische Variante deutscher Machtpolitik. in: Karl Heinrich Pohl (Hrsg.) 2002. *Politiker und Bürger: Gustav Stresemann und seine Zeit.* Göttingen.

Niedhart, Gottfried 2013. *Die Aussenpolitik der Weimarer Republik.* München.

Pohl, Karl Heinrich 1980. Deutsche „Wirtschaftsaussenpolitik“ 1925/26. Zu einigen Aspekten der Stresemannschen Europa-politik. in: Wolfgang Michalka & Marshall M. Lee (Hrsg.) 1982. *Gustav Stresemann.* Darmstadt.

- Poulain, Marc 1976. Zur Vorgeschichte der Thoiry-Gespräche vom 17. September 1926. in: Wolfgang Benz & Hermann Graml (Hrsg.) 1976. *Aspekte deutscher Außenpolitik im 20. Jahrhundert*. Stuttgart.
- Schröder, Hans-Jürgen 1982. Zur politischen Bedeutung der deutschen Handelspolitik nach dem Ersten Weltkrieg. in: Gerald D. Feldman u.a. (Hrsg.) 1982. *Die Deutsche Inflation. Eine Zwischenbilanz*. Berlin-New York.
- Sieburg, Heinz-Otto 1968. Das Gespräch zu Thoiry 1926. in: Ernst Schulin (Hrsg.) 1968. *Gedenkschrift Martin Göhring. Studien zur europäischen Geschichte*. Wiesbaden.
- Spaulding, Robert M. 1997. *Osthandel and Ostpolitik. German foreign trade policies in Eastern Europe from Bismarck to Adenauer*. Oxford.
- Stegmann, Dirk 1978. „Mitteleuropa“ 1925 – 1934. Zum Problem der Kontinuität deutscher Außenhandelspolitik von Stresemann bis Hitler. in: Ders. u.a. (Hrsg.) *Industrielle Gesellschaft und politisches System. Beiträge zur politischen Sozialgeschichte. Festschrift für Fritz Fischer zum siebzigsten Geburtstag*. Bonn.

6.3.2. 邦文

- アイク、エーリッヒ（救仁郷繁〔訳〕）1989.『ワイマル共和国史（I）～（IV）』ペリカン社
- 北村厚 2006.「シュトレゼマン時代におけるドイツ通商条約政策の政治過程——独仏通商条約交渉を中心に」『法政研究』第73号第3巻
- 北村厚 2014.『ヴァイマル共和国のヨーロッパ統合構想——中欧から拡大する道』ミネルヴァ書房
- 工藤章 1999.『20世紀ドイツ資本主義——国際定位と大企業体制』東京大学出版会
- グレーナー、ヴォルフ・D（丸畠宏太・進藤修一・野田昌吾〔訳〕）2008.『ヨーロッパのなかのドイツ』ミネルヴァ書房
- 濱口學 1973.「トワリー会談の意義」東京大学教養学部社会科学科〔編〕『社会科学紀要』第23集
- 牧野雅彦 2012.『ロカルノ条約——シュトレゼマンとヨーロッパの再建』中央公論新社
- 山崎敏夫 2001.『ヴァイマル期ドイツ合理化運動の展開』森山書店
- レヴィ＝ルボワイエ、モーリス（中山祐史〔訳〕）2003.『市場の創出——現代フランス経済史』日本経済評論社